

# 鳳凰堂の池浄化計画

世界遺産・平等院(京都府宇治市)で、鳳凰堂をとりまく「阿字池」の水の浄化が進んでいる。夏場になると植物性プランクトンが異常発生して水質悪化が目立っていたが、昨夏以降、バクテリアを利用した浄化実験に取り組んだところ、水質が改善され始めた。

阿字池は極楽の宝池を模し、鳳凰堂は浄土の樓閣をイメージしたとされ、これら平等院庭園は国の史跡・名勝に指定されている。池には湧き水があったが枯れてしまい、昭和40年代後半から井戸の水をくみ上げて入れている。

平等院によると、近年まで一定の水質を保っていたが、ここ5年ほどは夏場の異常高温などの影響か、水質悪化が顕著という。昨春、街づくりの開発設計や

## バクテリア利用実験



透明度が増した阿字池＝6日、京都府宇治市

水の浄化を手がけるウイルステージ(滋賀県草津市)に対策を依頼。同社は昨年7～10月、有機物を分解する働きのある納豆菌や酵母菌など8種程度のバクテリアを組み合わせて池に入れたほか、バクテリアが分解しやすいように植物性プランクトンを破碎しながら水

を循環させる小型浄化装置を水中に設置した。最初に設けた鳳凰堂の後ろ側の池は濁りが消え、水底まで見えるようになった。水質の指標となる化学的酸素要求量(COD)は、4年前の7月に1.8あたり27ミリグラムで「工業用水」の基準にも満たなかったが、

浄化作業を始めて約3カ月後の昨年10月には同2.7ミリグラム程度になり、「水浴びができるほど」まで改善した。同社の大谷洋士社長は「汚れがたまる一方で、抜く仕組みがない。こうした中、バクテリアで植物性プランクトンの繁殖を抑制するメカニズムが効いている」とみる。平等院の宮城宏索事務局長は「夏の様子を見たらうで、本設置に踏み切りたい」としている。

(小山琢)